

雑 録

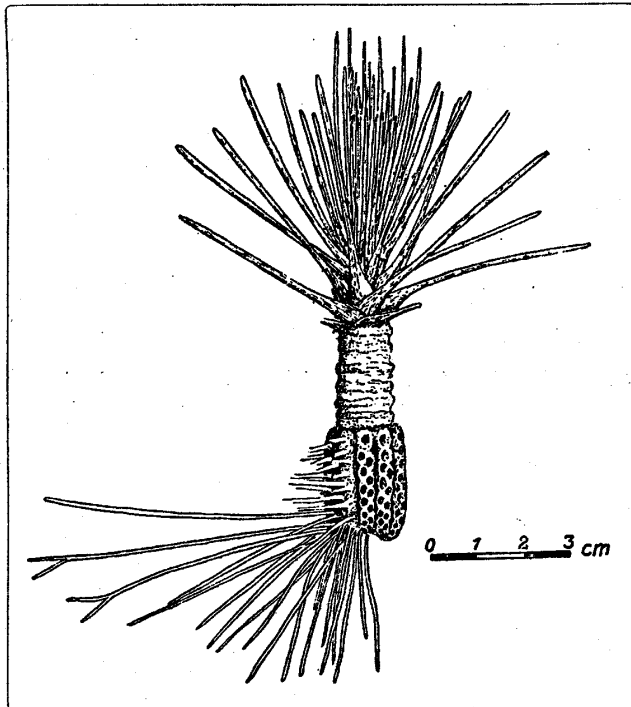
水 韭 (Isoetes) の 系 統

小 泉 源 一

羊齒門の一綱たる水韭綱 (Isoeteae) は現世にては只水韭屬 (Isoetes) の一屬64種を有するに過ぎず。其化石は泥盆紀の終より石炭紀にありと云ふ人もあれども古い所は疑はしくて不明であるが、白堊紀及び第三紀以來の化石は確實である。

水韭の形態中現世産他植物と著しく異なる所は、其イモ (Caudex) が上半の圓柱狀 Phyllophore と下半三裂せる Rhizophore とを有し、上半部に葉を生じ下半部よりは根を生ず、而して孢子囊には Traveculae なるものがあり大小の孢子を有する。

此特徴は下部白堊紀層の最下部 Wealden (Neocom) 層より産する *Nathorstiana*

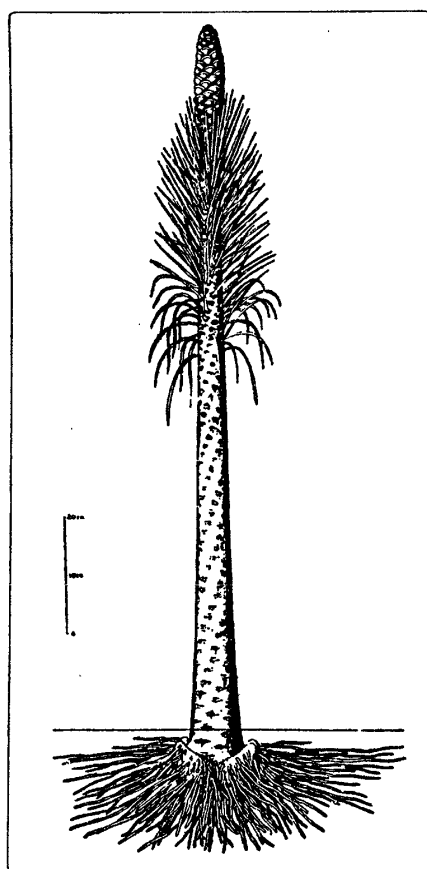


第一圖 *Nathorstiana*

(第一圖) の Caudex に頗るよく一致せるを見る、即ち水韭は白堊紀に下部白堊の *Nathorstiana* の如きものより降下せるものと考へらるゝに到れり。

而此に又三疊紀に Triassic Sigillarian Plant と呼ばるゝ *Pleuromeia* (第二圖) と稱する一屬の *Lepidophyta* あり、本植物は亦其 Caudex は二部に分れ、著しきは Phyllophore で葉の落下せし所に葉痕を残す事一般 *Lepidodendrales* の如く就中 *Sigillariaceae* の葉痕に最近似せるものを有す。

水韭に近縁ある *Nathorstiana* は此 *Pleuromeia* に遠く類縁關係あるものと認む、*Pleuromeia* の孢子囊には亦 Traveculae ありて大小孢子を有する事も同一である。



第二圖 Pleuromeia.

Pleuromeia は *Lepidophyta* 中の一獨立目 *Pleuromeiales* をなすものなるが其 Rhizophore は *Lepidodendrales* の *Stigmaria* 根塊に近縁あるのみならず其葉も頗る *Sigillariaceae* に一致せり、されば *Pleuromeia* は又遠く *Sigillaria* に關係ある事となり、究り水韭の先祖は *Sigillariaceae* 類似の植物であつたと云ふ事になる目下の學説である。

又水韭の根も他の化石類の根も皆又狀分岐をなす事も其共通特徴の一である。

梨 の 新 品

小 泉 源 一

昭和八年十二月四日東京大學 農學部 農業教員養成所學生、九里聰雄氏は武州小佛峠に於て一の新梨品を發見せり、和名をアヅマナシと命じ、學名は *Pyrus Kunoriana* KOIDZと稱し、九里氏の紀念とせり、新品は *Achras* 亞屬のもので葉は割合にうすく卵形又は卵圓形を呈し平に平臥せる小鋸齒あり其先端針狀となる、果實は褐色にして畧球形萼片殘存す。

Pyrus (*Achras*) *Kunoriana* KOIDZ. nov. sp.

Arbor circiter 8 metralis, ramis nigrescentibus vel badio-nigrescentibus glabris, lenticellis albidis oblongis vel orbicularibus dispersis. Gemmae ovoideae apice ferrugineo-pubescentes; perulis ovalibus mucrone argute calloso. Folia ovalia vel ovata, subito acuminata, basi rotundata, chartacea, adulta glaberrima, 8-11,5 cm. longa, 5-7,5 cm. lata, supra nitidiuscula,